



杭瀬川→

「みそぎ川渡り」を一目見ようと、岸边や橋の上は観衆でいっぱい = 杭瀬川6.0Kp地点（大垣市野口地先）

『厄除開運願い、杭瀬川に駆け込む男衆！』 宝光院節分会はだか祭り

- 「ひだりめ不動」の愛称で知られる宝光院（大垣市野口）で2月3日（火）、恒例の「節分会はだか祭」が行われた。一年間の災い・厄を杭瀬川に入って身を清め、厄除開運を祈願する伝統の行事。

同寺は約1200年前に創建されたとされ、はだか祭りは70年ほど前に復興した。祭られている不動明王が左目で地を見、右目で前を見て世の中すべてを見渡すとの言い伝えがある。

この日は午後2時の気温は15℃。鉢巻きと下帯姿の男衆約100人が「宝光院裸祭」と書かれた六尺禪ふんどしに身をまとい、見物客の間を縫って練り歩き、水しぶきをあげ、「わっしょい！ わっしょい！」と声を上げながら水温12℃の杭瀬川に次々と飛び込んだ。そして、大勢の見物が見守る中、幅20mほどの杭瀬川を歩いて渡りきった。

川渡りのみそぎの後、境内に戻った男衆は、人々の厄をしんおとこ背負う心男に選ばれた岩田雅治さん（42）＝安八郡安八町



力水を浴び境内を練り歩く男衆 = 宝光院境内の本堂前

を担ぎ回した。鈴木住職から男衆の中に福俵が投げ込まれると、俵の中に隠された「利剣木」と呼ばれる木の剣（今年の福男認定）を激しく奪い合い、祭りは最高潮を迎えた。



心男を担ぎ上げる男衆 二 宝光院境内の本堂前

■出張所コメント

「地域の伝統行事と河川愛護の共存を考えていきたい」

「水都」大垣を勤務地として、早1年を迎えようとしておりますが、ここ大垣では年間を通して、四季折々の表情をみせる河川を利用した祭りや催しが多いことに改めて気づかされました。

河川を利用した催しは、特に暖かい春・夏に多く見られますが、今回、寒中に杭瀬川を渡り歩く「みそぎの川渡り」が行われ、川沿いには多くの観光客が押し寄せると聞き、川の安全利用という観点で、それを一目見ようとその開催状況を確認させていただきました。

現地は、普段、とても静かなところですが、しかし、今日ばかりは、年に一度の祭りとあって大変な賑わいを見せ、川と共に生きる地域住民、参加者、観衆が一体となって伝統行事を守り続けている姿に感動をしました。

私も河川に携わる1人の行政マンとして、今後も河川管理者と河川利用者が一丸となり、川を愛する心を持って適正な河川利用が行われることを切に願っています。また、こうした行事を通じて、美しく親しみのある河川環境が守り続けられれば、これほど喜ばしいことはないと考えています。



事務係長 後藤 有佑

